

◎シリア政府軍、レバノン国境付近でキリスト教徒らの町などを奪還

【Christian Today、2014年4月15日】

<http://www.christiantoday.co.jp/articles/13154/20140415/syria-army-lebanon-christian-maaloula.htm>

シリア政府軍が、首都ダマスカスの郊外にあるレバノン国境付近の町マアルーラなどを反政府勢力から奪還した。国営通信であるシリア・アラブ通信（SANA）など、複数のメディアが14日に報じた。

「軍隊はマアルーラの安全と安定を回復し、この町周辺のテロリストたちを追跡し、そのうちの数人を排除し、そのテロリストたちによってこの町に仕掛けられていた地雷や爆発物を取り壊した」と、同通信は伝えた。

シリアのバシヤール・アサド大統領は13日、3年間にわたるこの内戦が自らに有利に傾いていると述べていた。

AFP通信によると、反政府勢力が基地として使っていたホテルは完全に破壊された。また、そのホテルから下ったところにあるギリシャ・カトリックの聖サルキス修道院も損傷を受け、壁が迫撃砲による射撃で穴が開き、内部にはイコンやその他の宗教的な物が散乱していたという。

マアルーラはダマスカスの北東約50キロの山岳部にあり、住民はイエス・キリストが話していたとされるアラム語を今も話していることで知られる。しかし戦闘が始まって以来、住民のほとんどが隣村やダマスカスに避難している。

カトリックのニュースメディア「アジア・ニュース」は昨年9月16日付の報道で、過激派が9月5日に攻撃して以来、マアルーラはゴーストタウンになってしまったと報じていた。また、安全上の理由により匿名で語った情報筋のコメントとして、「イスラム主義者たちがこの小さな町に隠れては、毎日、(政府)軍との暴力的な衝突に熱中している。今や何もかも破壊されてしまった。私たちの家々も、礼拝の場所も、何もかも」と、マアルーラの様子を伝えていた。

アジア・ニュースによると、この町の1万人のキリスト教徒の内、町に残っていたのは、聖テクラ修道院の修道女たちだけで、他には誰も残っていなかったという。

キリスト教徒が多いとされるこの町は、昨年の9月初めから政府軍と反政府勢力の抗争が続き、9月24日には、修道女と孤児約40人がマルタクラ修道院に閉じ込められたままだと、ダマスカスの正教会アンティオケア総主教庁が明らかにしていた。

その後、11月末にシリア人権監視機構は修道女らがマアルーラの修道院から連れ去られ

たとしていたが、昨年12月に反政府勢力がこの町を制圧した後、3月9日に解放されたとSANAなどが伝えていた。

ロイター通信などによると、マアルーラの教会や修道院は、紛争の前にはキリスト教徒とイスラム教徒双方の巡礼者たちを惹きつけていた。また、聖テクラ教会の修道院は奇跡による治癒で名高いという。マアルーラは1999年にシリアによってユネスコ世界文化遺産の暫定リストにも挙げられている。

一方、米国中央情報局(CIA)によると、シリアのキリスト教徒は全人口の約10パーセント。

☆関連するキーワード：中東のキリスト教、イスラム主義者、人口移動

イスラエルの歴史

ユダヤ教の起源

Overview

- ◆ アブラハム
- ◆ 出エジプト
- ◆ 士師の時代、イスラエル統一王国
- ◆ バビロン捕囚
- ◆ マカバイ戦争
- ◆ ユダヤ戦争
- ◆ ユダヤ教・キリスト教の誕生と宗教概念

アブラハム

- ◆ 三つの一神教にとっての信仰の父
- ◆ 神の言葉に従い、メソポタミア南部のウルから約束の地カナンへ移住
 - ◆ 主はアブラムに現れて、言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。」（創世記12:7）
- ◆ 神との「契約」
- ◆ アブラハム、イサク、ヤコブ（→イスラエル）
 - ◆ その人は言った。「お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と人と闘って勝ったからだ。」（創世記32:29）

出エジプト

- ◆ 前13世紀頃か？
- ◆ 十戒（出エジプト記20:1-17）
 - ◆ 「私は主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。」（十戒の冒頭）



十 戒

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| ◆ わたし（ヤハウェ）をおいてほかに神があつてはならない。 | ◆ 父と母を敬え。 |
| ◆ 像を造ってはならない（偶像崇拜の禁止）。 | ◆ 殺してはならない。 |
| ◆ 神の名をみだりに唱えてはならない | ◆ 姦淫してはならない。 |
| ◆ 安息日を守らなくてはならない。 | ◆ 盗んではならない。 |
| | ◆ 偽証してはならない。 |
| | ◆ 隣人の財産や妻を欲してはならない。 |

士師の時代、イスラエル統一王国

- ◆ 前12-10世紀、カナン定着後、カナン人、ペリシテ人たちとの戦闘
- ◆ 士師（軍事的・政治的指導者）を廃し、王を擁立する。
 - ◆ サウル、ダビデ、ソロモン
- ◆ イスラエル王国（北王国）とユダ王国（南王国）に分裂
 - ◆ イスラエル：前721年、アッシリアによって滅ぼされる。
 - ◆ ユダ：前597年、新バビロニア王国によって滅ぼされ、バビロニアへ強制移住。神殿（第一神殿）の崩壊。

バビロン捕囚

- ◆ バビロンの流れのほとりに座り
シオンを思って、わたしたちは泣いた。
竝琴は、ほとりの柳の木々に掛けた。
わたしたちを捕囚にした民が
歌をうたえと言うから
わたしたちを嘲る民が、楽しもうとして
「歌って聞かせよ、シオンの歌を」と言うから。
どうして歌うことができようか
主のための歌を、異教の地で。 (詩編137:1-4)

バビロン捕囚の影響

- ◆ 天地創造物語、洪水神話を受容
- ◆ 神殿の代わりとしてのシナゴーク
- ◆ 前539年、ペルシア王クロスによる解放

マカバイ戦争

- ◆ セレウコス朝シリアの支配下にあったユダヤ人の反乱。シリア王アンティオコス4世が前168年エルサレム神殿にゼウス像を建て、ユダヤ教の祭儀を厳禁した政策などに対し、ユダ・マカベアを指導者としてユダヤ人が蜂起。
- ◆ 「マカバイ記二」(旧約続編)によれば、豚肉を口にしよう強要されたマカバイの兄弟七人が、それを拒み殉教した。
 - ◆ 息を引き取る間際に、彼は言った。「邪悪な者よ、あなたはこの世から我々の命を消し去ろうとしているが、世界の王は、律法のために死ぬ我々を、永遠の新しい命へとよみがえらせてくださるのだ。」(同7:9)
- ◆ 復活思想の形成

マカバイ戦争以降の主要集団

- ◆ ファリサイ派：復活を信じる。
- ◆ サドカイ派：霊・天使・復活を否定。
- ◆ 熱心党：ローマ帝国に対する武力闘争集団。政治的なメシアの到来を待望。
- ◆ エッセネ派：宗教的清さを強調し、隠遁的な集団を形成。クムラン教団(死海文書を作成)もこの一派か。



ユダヤ戦争

- ◆ 第一次ユダヤ戦争 (66-73)
- ◆ 第二次ユダヤ戦争 (132-135)
 - ◆ バル・コクバの乱
 - ◆ 神殿(第二神殿)の崩壊。
 - ◆ ハドリアヌス帝はユダヤ文化の根絶をはかる。エルサレムからユダヤ人を排除。紀元4世紀になつてはじめてユダヤ人は、決められた日のみに神殿跡の礎石の前に立つことを許される。
→ 嘆きの壁



ユダヤ戦争後

- ◆ ディアスポラ(離散ユダヤ人)として生きる
- ◆ ラビ・ユダヤ教(現代のユダヤ教の起源)の形成
 - ◆ ファリサイ派が起源。神殿に依存しない。トーラー(律法、モーセ五書)とタルムード(口伝律法)を重んじる。

ユダヤ教・キリスト教の誕生と宗教概念

- ◆ ラビ・ユダヤ教は律法の宗教として、犠牲を捧げる儀礼を分離していく（beliefとpracticeの分離）。
- ◆ ユダヤ教の一派として誕生したキリスト教も、犠牲を捧げない、信仰（イエスの教え）を中心とした宗教として、ユダヤ教とライバル関係にあった。
- ◆ 「信仰」（belief）を中心とした宗教概念は、必ずしも近代西洋の概念ではなく、それより古い一神教的起源を持つ。